

令和4年度 自己評価

岐阜県立大垣工業高等学校（全日制）

学校番号 | 27

I 自己評価

1 学校教育目標		「質実剛健」の香薫の下、誠実にして強くたくましい心と体を持ち、心豊かな人間性と確かな知識・技術を兼ね備え、創造性に富む実践的な産業人の育成を図ります。
スクールポリシー	育てたい生徒像 グラデュエーション ・ポリシー（GP）	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとを愛し、人権を尊ぶ協調の精神をもち、グローバルで持続可能な視点を有し、地域の発展に貢献できる実践力と問題解決能力を身につけた生徒 ・将来のスペシャリストをめざして、絶えず新たな知識や技術を習得する創造性豊かな生徒 ・心身ともに健康で高い志をもち、社会から信頼され、チャレンジ精神をもった生徒
	生徒をどう育てるか カリキュラム・ポリシー（CP）	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の授業・実習等では、課題解決へ向けて「主体的、対話的で深い学び」や「探究的な学び」の推進 ・学ぶことや働くことの意義、目的をしっかりと考え、コミュニケーション力の向上を図り、ものづくりに関する知識、技能だけでなく、技術の変化に対応できる力の育成 ・生徒一人ひとりの個性や長所が伸長でき、深い学びを実現するためのカリキュラムの編成と個々に応じた細かな指導の実施
	どんな生徒を待っているか アドミッション・ポリシー（AP）	<ul style="list-style-type: none"> ・工業の分野に興味をもち、主体的、継続的な学びの姿勢で、未知の領域に挑戦しようとする意欲と熱意をもっている生徒 ・幅広い教養と高い専門性を得るため、自ら積極的に学び、考え答えを導きだそうとする行動力をもっている生徒 ・部活動、生徒会活動、地域活動に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒

2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>【生徒対象のアンケート結果】</p> <p>(1) 「熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる先生が多い」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 53%(R3) → 52%(R4)</p> <p>(2) 「授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 52%(R3) → 48%(R4)</p> <p>(3) 「ICT を活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などがあり、学習の理解につながっている」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 47%(R3) → 46%(R4)</p> <p>(4) 「学校は、授業を改善(わかりやすい授業、楽しい授業等)しようとして努力している」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 55%(R3) → 51%(R4)</p> <p>・上記は、授業に関連する生徒アンケートの推移である。今後、多くの先生方がICTを活用した授業に取り組むなど、授業改善に取り組む必要がある。</p> <p>【保護者対象のアンケート結果】</p> <p>(1) 「教員は授業をとおして、学力が向上するように指導している」という問いに「あてはまる」と回答した保護者の割合 56%(R3) → 54%(R4)</p> <p>(2) 「ICT を活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などにより、生徒の理解を高めようとして努力している」</p>

	<p>という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 48%(R3) → 46%(R4)</p> <p>(3) 「授業や家庭学習への指導・支援等をとおして、一人一人の能力に応じた指導を行っている」という問いに「あてはまる」と回答した保護者の割合 50%(R3) → 50%(R4)</p> <p>(4) 「学校は、授業を改善(わかりやすい授業、楽しい授業等)しようと努力している」という問いに「あてはまる」と回答した保護者の割合 49%(R3) → 50%(R4)</p> <p>・上記は、授業に関連する保護者アンケートの推移である。教職員の学習指導への取組について、保護者の理解を十分に得られるような新たな取組や改善が必要である。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇学習支援ソフトによる効果的・効率的な授業を研究し、各教科における重点的な取組の実現に向けて、環境整備や教育情報提供などの支援を行う。</p> <p>◇オンラインによる学習支援について、様々な方法や活用について検討を行う。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>・教務部、工業部が連携して推進</p>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>①学習支援ソフトの活用に関する研修会を複数回実施。</p> <p>②オンライン学習支援に活用できるような、公開授業や研究授業の実施。</p> <p>③研究授業や公開授業を設定し、職員による相互評価や授業研究会の開催。</p>	<p>①生徒による授業評価の結果</p> <p>②生徒・保護者アンケートの回答</p> <p>③研究授業・公開授業の教員間評価</p> <p>④研究授業・公開授業の実施件数</p> <p>⑤生徒・職員アンケートの回答</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>①普段の授業の中で、学習支援ソフトの積極的な活用がみられた。</p> <p>②オンライン学習に活用できるような学習支援ソフトを利用した授業が多数実施された。</p> <p>③各教科・学科の研究授業や公開授業Weekを複数回実施した。</p>	<p>①生徒を対象とする授業アンケートの結果</p> <p>②研究授業・公開授業の教員間評価</p> <p>③研究授業・公開授業の教員間評価</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
11 成果・課題	<p>○今年度も多くの研究授業や公開授業を行って頂けた。普段の授業の中でもICT機器や学習支援ソフトの積極的な活用が定着している。</p> <p>△まだまだICT活用に苦手意識を持っている教員が多いため、さらに多くの先生方がICTを活用した授業に取り組むなど、授業改善に取り組む必要がある。</p> <p>△特に若い先生が、日常的な指導や業務に時間を取られてしまい、ICTを活用するための授業準備の余裕がない。</p>	
総合評価		
A (B) C D		

令和5年度
12 重点項目
<p>◇学習支援ソフトによる効果的・効率的な授業を研究し、各教科における重点的な取組の実現に向けて、環境整備や教育情報提供などの支援を行う。</p> <p>◇魅力ある工業高校の発信</p>
13 具体的実践内容
<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援ソフトの活用に関する研修会を複数回実施。 ・研究授業や公開授業を設定し、職員による相互評価や授業研究会の開催。 ・本校の魅力が広く伝わる機会を充実させ、小中学生に伝わりやすい効果的な発信方法を検討し、実践する。

2 評価する領域・分野	◇生徒指導（含教育相談）	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育目標を理解し、入学後に規範意識が向上している。 スマホの長時間の利用により学習などの大切な時間を奪っている。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 自覚と責任を持った自己自律ができる生徒の基本的生活習慣の育成。 教科、ホームルーム指導を通して倫理観や規範意識を体得させる。 交通事故防止啓発活動などを通して、危険予測能力や危機管理意識を高める。 教育相談の充実とチームサポートにより発達障がいなどの生徒への支援体制づくりをする。 「いじめ」の未然防止、組織的対応の推進。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 登校時、遅刻時のルールの徹底、登校生徒状況の共有化 生徒情報の共有化（支援が必要な生徒情報の迅速化） 指導、支援のマニュアル化と報連相の徹底 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> 登校指導時の交通安全、身だしなみの指導 各種アンケート、個人懇談によるいじめに対する早期の組織対応 支援生徒に対する外部機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 前年までの統計との比較 いじめの早期発見と対処が出来ているか事後指導 支援生徒の生活改善 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の交通安全、身だしなみの指導 支援生徒に対する外部機関との連携 予鈴前登校指導、遅刻指導の継続実施 アンケートの実施と注意喚起、早期の組織対応 授業規律の確立を推進するとともに授業環境を整える 	<ul style="list-style-type: none"> ①組織的にサポートできたか ②落ち着いた授業の雰囲気 ③職員間で連携が取れたか 	<ul style="list-style-type: none"> (A) B C D A (B) C D A (B) C D
11 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> 風紀委員（MSL）を中心として『自転車の2重ロック』および『マナーアップ』運動を行った。自転車マナーについては学校を離れた場所でも意識できるような取り組みが必要。 いじめに対する感度が高まり、細かいことでも対応することができているが、偏った自己表現、コミュニケーション不足によっていじめに起因する問題が多くなっている。 体調不良者の出席停止となる措置が継続している。出席停止と通常の欠席を足すと長期欠席となる生徒が出ているのが昨年度に続く特徴である。そこから不登校や学業への意力の低下へつながっているケースも少なくない。今後の対応について検討する必要がある。 学校行事、資格取得、ものづくり部活動を通して、工業高校で学ぶ目的、学校生活での目標を常に考えさせながら学校生活を送らせることが必要。 	
総合評価		
A (B) C D		

令和5年度
12 重点項目
<ul style="list-style-type: none"> 自覚と責任を持った自己自律ができる生徒の基本的生活習慣の育成 教科、ホームルーム指導、部活動を通して倫理観や規範意識を体得させる 交通事故防止啓発活動などを通して、マナーや危険予測能力や危機管理意識を高める 教育相談の充実とチームサポートにより発達障がいなどの生徒への支援体制づくりをする 「いじめ」撲滅のための組織的対応の推進
13 具体的実践内容
<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の交通安全、交通マナー、挨拶、身だしなみの指導 見守りと情報共有による問題行動の未然防止、心のアンケートやいじめ調査の実施と早期の組織対応 支援生徒に対する指導方法の周知と外部機関との連携

2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者は全員進路先を決め、進学希望者も大学入学共通テストを課す選抜試験を受験した者以外は、進学先を決定することができた。 ・生徒が「進路の手引」や「大工未来手帳」を活用する場面で、特に大工未来手帳で、十分な指導ができていなかった。 ・基本的な生活習慣が身につけていない生徒やコミュニケーション力の低い生徒の増加で、1年次からの進路指導が難しくなっている。 ・1年生の目的意識が、学科の選択を重要視し、自らの将来への目標や具体性に乏しく進路目標を先延ばしする傾向がある。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇「キャリアパスポート」と「大工未来手帳」の併用と必要性の向上。</p> <p>◇基礎力診断テスト実施のため、関係教科と連携および事前学習の準備期間を確保する。</p> <p>◇生徒が進路選択をする上で、企業が求める人材を把握、自身の現状と比較し、ミスマッチがないように促す。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教育活動において、大工未来手帳を活用できるように全職員に協力依頼し推進に努める。 ・基礎力診断テストの結果が進路選考基準の対象となることを周知し、事前学習の取り組みを、学科や担任へ協力依頼して基礎学力の向上を目指す。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>①コロナ禍でオンラインによる方法で実施していた進路指導行事を対面方式にして、講話等で生徒がリアルタイムで行動（手帳の活用）できる機会を増やし、進路実現に向け取り組ませる。</p> <p>②就職、進学を問わず、基礎学力向上のため、「ワンウィークトライアル」を早期に配布し、レポート学習できる期間を設けて取り組みの向上を図る。</p>	<p>①「進路の手引」「大工未来手帳」の活用状況調査</p> <p>②基礎力診断テストの結果分析 基礎学力教材の到達度 進路決定率100%へ向けた達成度</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>①進路の手引や手帳の活用を学年会等で職員へ依頼する。</p> <p>②進路ガイダンスや進学ガイダンスでも基礎学力の重要性を周知してある、基礎力診断テストに向けて事前学習教材を早めに配布し、学習時間を確保することができた</p> <p>③進路希望に対する適切な指導がある程度できた。</p>	<p>①「進路の手引」「大工未来手帳」の活用度</p> <p>②基礎学力事前学習教材の活用度</p> <p>③進路選択先の可否状況</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
11 成果課題	<p>○今年度の本校への求人は、昨年度よりさらに増えた状況で、就職希望者が1次試験で不合格になったのは、2.6%(公務員を含む)と極めて少なく、ほとんどが1次試験結果で内定が決まった。</p> <p>○インターンシップの実施を含む本校のキャリア教育を進めていくため、コロナ感染状況をみながら進路指導行事を対面による方法で行ったことで、生徒の行動が明確になり、様々な課題が見い出せた。</p> <p>△基礎力診断テストの事前学習時間の効果が全体的には、まだ不確かである。</p> <p>▲「大工未来手帳」を活用する生徒が、昨年よりは増えたが、全体としては少なかった。</p> <p>▲進学の志望先を、志望理由が不明確のまま進学を決めている者が多数いる。</p>	

令和5年度
12 重点項目
<p>◇「大工未来手帳」の活用で自らのスケジュール管理をすることから、「キャリアパスポート」との関連付けを推進する。</p> <p>◇基礎力診断テストの実施後の追跡調査と基礎力向上のための事前学習への取り組みの向上を目指す。</p> <p>◇2年次後半には具体的な進路目標を決めて、自分の希望に適した進路選択ができるように工夫をする。</p>
13 具体的実践内容
<ul style="list-style-type: none"> ・進路意識を高め、社会人基礎力の育成のためにも「キャリアパスポート」を導入し、ガイダンスや講話等で「大工未来手帳」＝「キャリアパスポート」となるような手帳の活用を、職員の協力で実践することを目指す。 ・インターンシップの時期とあり方の検討や工業科との連携で現場・企業見学等の実施を図り、専門高校である本校ならではのキャリア教育を実践していく。

2 評価する領域・分野	◇工業
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>(1)地域連携事業、出前授業、ものづくり大会などでの多面的な活動により工業高校・工業教育への理解や関心が、地域の方々に浸透している。</p> <p>(2)大垣市、地元企業、地元教育機関などとの連携により、主体性を持って活動できる学びの場が設けられ、実践力、協調性を多くの生徒が身に付けている。</p> <p>(3)ものづくりの競技大会で全国大会への出場や、県大会1位などの優秀な成績を収めることができた。</p> <p>(4)コロナ禍にもかかわらず、多くの出前授業の依頼を受けている。</p>
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1)教科指導を通して職業観・勤労観を育成し、心豊かな人間性とたくましく生きる力を育てる。</p> <p>(2)大垣市、地元企業、教育機関等と連携を今後も継続し、地域産業のニーズに応じた実践力と協調性のある人材を育成する。</p> <p>(3)出前授業やものづくり体験等の企画運営を通して、地域や小中学校の児童生徒・保護者の工業教育への興味関心を高める。</p> <p>(4)本校入学志願者の増加に向け、広報活動に注力する。</p> <p>(5)これまでの本校における取り組みを継続しつつ、SDGsの視点を有するグローバル人材を組織的に育成する。</p>
5 重点目標を達成するための校内における組織	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1)ふるさとを愛し、人権を尊ぶ協調の精神をもち、グローバルで持続可能な視点を有し、地域の発展に貢献できる実践力と問題解決能力を身につけた生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事に参加した生徒の反応と感想 ・各行事における参加者(地域住民な

<p>(2)将来のスペシャリストをめざして、絶えず新たな知識や技術を習得する創造性豊かな生徒の育成</p> <p>(3)心身ともに健康で高い志をもち、社会から信頼され、チャレンジ精神をもった生徒の育成</p> <p>(4)入学志願者増加に向けた広報推進方策の策定と実践</p>	<p>どの反応と感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事などの掲載回数 ・本校ホームページへの記事掲載数 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>(1)ふるさとを愛し、人権を尊ぶ協調の精神をもち、グローバルで持続可能な視点を有し、地域の発展に貢献できる実践力と問題解決能力を身につけた生徒の育成</p> <p>①研究指定事業「中長期インターンシップ事業」 7月25日～29日を中心に実施し、希望者39名が14社に分かれて企業現場を体験した。地域産業の担い手としての職業観や勤労観を育むことができた。</p> <p>②研究指定事業「地域資源を活用した専門的職業人の育成事業」 各学科での外部講師による講演会実施、地元企業との産学連携活動、資格取得指導(機械保全、電気溶接など)、技術指導力向上(電気溶接、産業用ロボットなど)、岐阜工業高校ものづくり教育プラザの活用など幅広く活動した。取り組みを通して、生徒及び教員の資質能力の向上を図ることができた。</p> <p>③SDGsに関連する取り組み 岐阜県「清流の国ぎふ」SDGs推進ネットワークに5件の活動を報告した。外部SDGsイベント2事業において本校の活動報告を行った</p> <p>(2)将来のスペシャリストをめざして、絶えず新たな知識や技術を習得する創造性豊かな生徒の育成</p> <p>①若年者ものづくり競技大会 7月27日(水)～28日(木)、広島県を中心に開催された。フライス盤・メカトロニクス・ロボットソフト組込み・ITネットワークシステム管理の4職種に参加した。</p> <p>②岐阜県工業高校生ものづくりコンテスト 12月3日(土)・10日(土)、岐阜県立国際たくみアカデミーを中心に開催された県大会7部門に参加した。 【敢闘賞】メカトロニクス、電子回路組立て【奨励賞】旋盤作業、電気工事</p> <p>(3)心身ともに健康で高い志をもち、社会から信頼され、チャレンジ精神をもった生徒の育成</p> <p>①テクノコラボレーション 大垣特別支援学校との協働によるテクノコラボレーションを今年度も実施した。今年度は3学科が6つの学習用教材を製作した。</p> <p>②出前授業 西濃地区中学校7校において出前授業を実施した。</p> <p>(4)入学志願者増加に向けた広報推進方策の策定と実践</p> <p>①広報メディアの改良 工業部が中心となり、これまでの内容に卒業生の声などを加え、魅力的な学校パンフレットが完成した。ホームページも刷新し、校内各分掌の取り組みの掲載が容易になり、掲載数が増加している。</p> <p>②夏の高校見学会 7月26日～28日の3日間に実施した。41校から中学生、保護者、引率者を含め714名の参加があった。</p>	<p>生徒の職業意識を高めることができたか。</p> <p>豊かな地域資源を認識することができたか。</p> <p>資格取得に対する意欲を高めることができたか。</p> <p>技術指導力を高めることができたか。</p> <p>生徒に実践的なコミュニケーション能力が身に付いたか。</p> <p>地元中学生の工業高校への興味関心を喚起できたか。</p> <p>地域住民の本校への興味関心を喚起できたか。</p> <p>本校HPへの投稿は昨年度より増加したか。</p>	<p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>

<p>③中学生一日入学 市内中学生は10月4日(火)、市外中学生は10月5日(水)の2日間実施した。32校から中学生267名の参加があった。</p> <p>④中学校が主催する進路説明会 今年度は教務部と工業部が連携し、中学校主催の15校の進路説明会に参加した。</p> <p>⑤各学科群及び各学科が本校ホームページ NEWS 欄の投稿により近況報告を行った。</p>		
<p>11 成果・課題</p> <p>○岐阜県ものづくりコンテストにおいて優秀な成績を収めることができた。</p> <p>○これまでの出前授業の継続実施が定着し、中学校における活性化事業実施時に多くの要請を受けることができた。</p> <p>○地域諸団体との連携活動を実施し、地域住民に本校の取り組みが周知された。新聞や情報誌での記事掲載も効果的であった。</p> <p>○本校ホームページNEWS欄への投稿が活発化した。</p> <p>○コロナ禍の影響による各種連携事業に復活の兆しが見えてきた。</p> <p>▲SDGsを導入する企業が拡大している現況を鑑み、教科横断的な指導体制を確立する必要がある。</p>		<p>総合評価</p> <p>Ⓐ B C D</p>

<p>令和5年度</p>
<p>12 重点項目</p>
<p>(1)教科指導を通して職業観・勤労観を育成し、心豊かな人間性とたくましく生きる力を育てる。</p> <p>(2)研究指定事業を活用し、大垣市や地元の企業・教育機関等と連携を今後も継続し、地域産業のニーズに応じた実践力と協調性のある人材を育成する。</p> <p>(3)出前授業やものづくり体験等の地域との連携活動運営を通して、地域や小中学校の児童生徒・保護者の工業教育への興味関心を高める。</p> <p>(4)本校入学志願者の増加に向け、広報活動に注力する。</p> <p>(5)これまでの本校における取り組みを継続しつつ、SDGsの視点を有するグローバル人材を組織的に育成する。</p>
<p>13 具体的実践内容</p>
<p>(1)外部の支援を受けて実施する企業見学会などの見学会の実施。</p> <p>(2)テクノコラボレーション、地域諸団体との連携事業、出前授業、SDGsを題材とした外部機関との連携などの継続実施。</p> <p>(3)ICT機器の利活用研究。</p> <p>(4)中学生1日入学や高校見学会での体験内容を充実する。併せてパンフレットなどの配布物作成に積極的に取り組む。</p> <p>(5)各学科の魅力ある取組内容や、本校の生徒が活躍する姿を外部へ広報できるように、ホームページへの掲載を積極的に行う。</p>

II 学校関係者評価

実施年月日 令和5年2月8日

<p><学校運営全般に関して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で対面での行事ができず、「人と対する」ことの苦手な部分が社会に出る時にとっても問題となる。学校の中で何とか伸ばせるように計画を立てていけると良い。 ・先生、部活動での仲間や先輩との関わりを極力持たせられると良い。 ・対面での会話減、文字を使ったコミュニケーションで、直接的な会話が減っている。略語を多用した会話など、正しい言葉を使った話し方から離れている生徒も多い。スマホを使い解決できる世の中ではあるが、対面で会話をする機会を多くつくる必要がある。 ・わからない事は聞き、教えてもらうことは基礎的で一番必要なスキルである。学びの面も大切
--

であるが、実業高校として社会性、コミュニケーション力を重視してほしい。

- ・生徒会組織など、生徒たちが活躍できる場を作ると良い。生徒がやらされているという考えでなく、自分たちが提案や進めているといった状況があると良い。

<課題研究発表および工業科の取組>

- ・社会に出た時のことを考えると、他分野について興味を持つ良い機会となっている。
- ・新しい課題を立てることも、先輩の達成できなかったことを課題とするのも、いずれも大きな達成感を得るきっかけになると思う。継続して先輩の課題を引き継ぐのも良い。
- ・18歳の高校生がここまでことができるということに感動した。普通科にはない学びが工業科にはあるのでこのことを重視してほしい。
- ・研究を通して、壁にぶつかることや乗り越えてくるプロセスの体験が重要なポイントであり、社会人になる身として良い経験となっている。
- ・社会に出た時のことを考えると、対面でのプレゼンの形式で課題研究発表会を継続していただきたい。
- ・対面で行うことで、生徒の大きな成長につながると思う。また、限られた時間で何を伝えるかを考え、発表していることも貴重な経験となる。